

# ふるさと歴史アラカルト

## 渋沢栄一と玉乃世履 ①

新しい1万円紙幣の顔に決まり、ドラマの主人公としても注目されている渋沢栄一。今回は旧岩国藩士の玉乃世履との交流について紹介します。

玉乃は、幕末には養老館の教授のほか、坂上撫育方として、当時荒廃していた坂上地方(美和町)の復興に尽くすとともに、民兵の軍隊・北門団を組織し、慶応2(1866)年の四境戦争に出兵しました。明治になると司法の道に進み、初代大審院長を務めました。

渋沢は『実驗論語処世談』の中で玉乃との交流について触れています。まず『論語』の一節の「友が過ちに陥りそうになった場合は忠告して善に導くようにし、もし、友が忠告を聞かなかつた場合は、親兄弟との親しさとは異なるため、もう忠告をすべきではない」という孔子の教えを紹介しています。その後、これに対する渋沢の考えとして、友は時に兄弟よりも深い交わりのものもあり、自身の友人関係で見ると玉乃との関係がそれに当たるとして、いくつかの逸話を語っています。

その一つが、渋沢が大蔵省を辞めて銀行事業に関わることになった際、玉乃が「渋沢は才能があり機会も得て大蔵省で昇進してきた。このまま政府にいれば、自分の考えも実行でき、才能も伸ばせるではないか。政府を去り、しかも商売人になるというのが理解できない。結果的に渋沢個人は金持ちになれるかもしれないが、国のためにはならないから、国のために尽くすという初志を貫こうとすることはやめた方がよい」と忠告したというものです。渋沢は忠告に感謝をしながらも「私が実業家になるのは自分のためではない。今は経済活動をしなければ国を豊かにすることもできないと感じているが、昔と変わらず国のために尽くそうとしているのである。だがもし、自分のことのみを考えているような時があれば、またいさめてくれ」と答えたそうです。

このように意見が対立しても渋沢は玉乃のことを「本当の君子」「高潔な人」「真に益友」と評し、友人関係の一つの形を教えてくれています。

### 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館  
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452  
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

- ※1 吉川家が設置した岩国の武士のための学校
- ※2 坂上地方の15村を治める代官に相当する役
- ※3 現在の最高裁判所長官に相当する



写真：玉乃世履

## 岩国市 人口・世帯

人口 131,000人【前月比 -136人】 男性 62,334人 女性 68,666人

世帯 65,622世帯【前月比 -34世帯】 ※外国人人口を含む(2021年7月1日現在)

### 交通事故発生件数

6月分事故件数 24件(113件) 死者数 0人(4人) 傷者数 24人(128人)

※高速道路発生分を除く。( )内は2021年累計

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。  
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337